

●生物産業学部

1. 教育研究上の目的

本学部は、人類生存の基である生物産業にかかわる生産、加工、流通、経営を取り巻く自然科学的・社会経済的現象を教育研究の対象とした生物産業学を基盤として、文理融合の教育体系のもとで、生命・食料・資源・環境問題に関する深い知識を持ち、その解決方向を示すことの出来る地域社会・国際社会に貢献しうる人材を養成する。

2. 教育目標

生物産業学部は、その人材養成目的を踏まえ、以下の人材育成を教育目標とする。

- (1) 広義の農学を基盤とした生物産業学に関する高度な専門知識と技術を幅広く有する者。
- (2) 生物産業学の専門家としての意欲と責任を自覚し、実学主義のもと意欲的に課題に取り組む問題解決能力を有する者。
- (3) コミュニケーション及びプレゼンテーション能力を有し、社会貢献できる者。

3. アドミッションポリシー

生物産業学部は食料自給や環境保全など人類共通の課題に興味を持ち、問題解決に向けて意欲的にチャレンジし、生物産業の発展に寄与すると共に、広く社会に貢献できる人を求めている。

- (1) 学部の教育目標の下で、生物産業学を修める意欲のある人。
- (2) 高校卒業程度の基礎学力を確実に修得している人。
- (3) 健全な人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有する人。
- (4) 地域や社会に貢献しようとする強い意志、広い視野、明確な問題意識を有する人。

4. カリキュラムポリシー

生物産業学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を踏まえ、「生産―加工―流通・ビジネス」の学部教育理念の下で、ディプロマポリシーに掲げた能力を身に付けた人材を養成するために、以下のことに配慮しながら、教育課程を編成し、これに従い教育を行う。

- (1) 広範で多様な基礎科目と各学科の特徴ある専門科目の履修を通して、生物産業に関わる専門を学ぶことの意義を認識させる。
- (2) 専門基礎科目及び専門科目を学び、時代に適応した高度な専門知識を修得させる。
- (3) 演習、実験、実習、ゼミナールを通して実践的専門知識と技術を修得させる。
- (4) 課題解決能力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などを自主的に育成するために、卒業論文を必修とする。
- (5) 初期教育の段階から将来への進路を想定した履修モデルを編成し、それに向けた

実践的専門知識を修得させる。

5. ディプロマポリシー

生物産業学部は、本学教育目標に基づき、幅広く一般教養を身に付け、生物産業に関わる様々な課題の解決に積極的に貢献できる能力が身に付いている学生に対し、学位を授与する。

- (1) 所定の期間在学し、全学、学部共通科目に加え、「生産—加工—流通・ビジネス」の学部の理念のもとに編成した各学科の特徴を活かした科目（演習、実験、実習、ゼミナールを含む）の専門的知識や技術を身に付けている。
- (2) 卒業論文の作成に取り組み、論理的思考力や問題解決力などの能力を身に付けている。
- (3) 本学部での教育研究活動から修得した能力を活かし地域社会に貢献できる姿勢を身に付けている。
- (4) 自らの力で生物産業に関わる課題を見出すことができ、その課題を計画的に遂行でき、自らの考えを他者に伝える能力を有する。